



ミニオープンキャンパス

令和6年(2024年)11月16日(土)開催  
詳細は大学Webサイトをご確認ください。



2025年度 武蔵大学の一般選抜

- 全科目の回答方法はマークシート方式
- 試験日の異なる入試はすべて併願可能
- 併願割引を実施

- 【全学部統一型】
- ・1回の試験ですべての学部学科専攻に出願可能。
- 【全学部統一グローバル型】
- ・指定の英語資格・検定試験(4技能)のスコアを得点化。
  - ・試験当日の英語の試験はなし。
  - ・1回の試験ですべての学部学科専攻に出願可能。
- 【個別学部併願型】
- ・同一試験日における学部専攻併願が可能。

- 大学入学共通テスト方式
- 【前期日程】
- ・3科目入試
  - ・すべての学部学科専攻に出願可能。
- 【後期日程】
- ・2科目入試
  - ・すべての学部学科専攻に出願可能。

【※】新2号館  
2025年完成予定の新2号館は、日本を代表する建築家、隈研吾氏の設計。5階建てとなり、分野横断的な知をつなぐ、食と情報をつなぐ、街路と広場をつなぐ、など「つなぐ」ことで生まれる一体感や学生の交流・協働・連携を促進する。SDGsにも配慮した屋内外一体のデザインでイベントホールとしても利用可能。



新学生寮(大学から徒歩1分)



【右】外国籍の教員が多数在籍する国際教養学部グローバルスタディーズ専攻  
【左】キャリア支援センターでの全員面談(上) / 各学部で学びの成果を発表する場が用意されている(下)

から世界水準の経済・経営学の知見を身につけ、高い英語力と教養、統計分析の手法を備えたグローバルに活躍できる人材を育成します。2025年9月からは、ロンドン大学のデータサイエンスに関する学位取得もめざせるよう、現在準備を進めています。また、グローバルスタディーズ(GS)専攻では、国境を越えて人や情報が行き交う中、高度な語学力を養うとともに、国際関係コミュニケーション、文化の側面から学際的に学びを深めます。さらに留学や異文化体験を通して、地球規模の課題と向き合うグローバルリーダーを育成します。

「PDPでは、これまでに本学とロンドン大学の学位を取得した学生が40名以上にのぼります。2023年度は、過去最多の14名の学生がロンドン大学の学位を取得しましたが、学部開設から3年目を迎え、今後さらに増える見込みです。国際機関をはじめ、グローバルに活躍したいという目標がある学生にとっては、海外大学の学位は有利に働きます」(高橋学長)

「所属する学部の垣根を越えて学生がチームをつくり、企業が提示する課題に取り組む『学部横断型ゼミナール・プロジェクト』も、学生の視野を広げる特徴的な授業です。ただし、初めから多角的で高度な議論を期待しているのではなく、所属学部で培った知識を最大限に生かして意見を発信する過程で新たな気づきを得ながら課題を整理・集約し、議論を深めて解決策を導き出すことが目的です。本学はワンキャンパスだからこそ、こうした全学的な取り組みを推進しやすく、学生間の「化学反応」が起こりやすい恵まれた環境だと考えています」(高橋学長)

「データサイエンス副専攻を設置横断的・学際的な学びを拡充」

武蔵大学では、データサイエンスなど文理融合教育の充実化も図っています。その拠点となる「リベラルアーツ&サイエンス教育センター」では、専門知と専門知を融合させ、新たな知を生み出す『総合知』を養うことを目標に掲げ、これまで各学部が提供していた科目を一元管理し、新たな全学科目としてカリキュラムを設計しました。経済学や社会学など他学部の学びに触れられる科目や、

ロンドン大学の学位取得後に国内外の大学院に進学するケースも増えています」(高橋学長)

**少人数ならではの支援体制と学生の意欲に応える環境を整備**

キャリア支援においても少人数制のメリットを生かしたサポートを行っています。キャリアカウンセラーなどの専門資格を持つ職員が10名以上常駐して個別相談に応じるほか、就職活動が本格化する前に3年生全員と面談を実施。学生が主体的に進路決定できるよう指導しています。

「本学のキャリア支援は、ある意味で『手間をかけ過ぎ』なほどの充実ぶりだと思いますが、そうした環境を学生が理解して存分に活用している印象があります。学生とキャリアアコンサルタントとの面談件数は、1カ月平均で延べ500件以上、個別相談の利用経験者は全学生の91%にのぼります。利用者の平均利用回数は8回と、多くの学生が繰り返し相談していることがわかります」(高橋学長)

また、多様化する学生の学びに対応するため、キャンパス整備も進められています。2024年秋には新学生寮が、2025年には新2号館が完成する予定です。

「新学生寮は、外国人留学生30名と国内の学生10名ほどの入寮者を想定し、キャンパス内での留学生との交流がより活発になることを期待しています。引き続きグローバル教育にも注力する方針であり、今後は欧米などの先進国だけでなく、アジアやフリカを含めた地球全体を意識しながら学生が自分の立ち位置や役割を考えていけるよう、語学教育や留学制度をさらに拡充していく予定です。本学は、学生に何らかの意欲が生まれたときに、いつでも応えられる環境を整えておくことが、大学の果たすべき責務であると考えています。4年間のゼミや学部横断ゼミもそうですが、日常とは違う社会の現実や、企業が取り組む社会的な課題と向き合うことで問題意識を高め、自らの目標設定につながられるような学習機会を豊富に設けています。受験生の皆さんには、ぜひ多様な学びにあふれた本学に入学し、自らを突き動かす学びのエンジンに火をつけてほしいと願っています」(高橋学長)



たかはしのりゆき  
高橋徳行学長  
1980年慶應義塾大学経済学部卒業。98年バブソン大学経営学修士課程修了(MBA)。専門分野はアントレプレナーシップ。武蔵大学経済学部教授、経済学部長、副学長を経て2022年より現職。

武蔵大学は、近代日本を代表する実業家・政治家、根津嘉一郎(初代)が1922(大正11)年に開校した、日本初の私立七年制高等学校である、旧制武蔵高等学校をルーツとしています。建学の理想に掲げられた「自ら調べ自ら考える力ある人物」を育む場として、開学時から続く少人数制のゼミナール教育が今も受け継がれ、「ゼミの武蔵」としてその名が知られています。

2022年には学園100周年を迎え、国際教養学部やリベラルアーツ&サイエンス教育センターの設置、データサイエンス科目の充実化など、次代を見据えたグローバル教育や文理融合教育の改革を推進。高度な専門性と学際的な知見、行動力を磨き、世界を生き抜く力を備えたグローバルリーダーの育成をめざします。

# 武蔵大学

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1 アドミッションセンター TEL 03-5984-3715 <https://www.musashi.ac.jp/>

## 世界を生き抜く力を磨く「ゼミの武蔵」 総合知と実践力で地球規模の課題に挑む

### 自主性や多様な視点を育み、 専門性を高める少人数制ゼミ

大学通信が調査した『進路指導教諭が勧める大学ランキング』(2024年度)において、「小規模だが評価できる大学」で8年連続の首都圏1位、「面倒見が良い大学」で15年連続の首都圏1位に輝いた武蔵大学。このほか複数の項目で高い評価を得ています。

武蔵大学の最大の特長は、徹底した少人数教育にあります。旧制高等学校時代から受け継ぐ「建学の三理想」を体現する場として、「ゼミ」を教育の基盤としてきました。

「本学は、ゼミや少人数形式の授業を全学で4年間履修します。その最大のメリットは、活発な議論を通して視野を広げながら、研究テーマに関する理解を深め、専門性を高められることです。ゼミでは講義型の授業では難しい丁寧な指導が可能です。自由度が高く、学生の知的好奇心に応える柔軟な指導ができますので、最先端の事例なども交えながら学びを深めていけるのです」と、高

橋徳行学長は語ります。

「ゼミあたりの学生数は約13名。少人数のため教員と他の学生との距離も近く、切磋琢磨しながら学ぶことで自主性や課題解決力、コミュニケーション能力などが養われます。」

「所属する学部の垣根を越えて学生がチームをつくり、企業が提示する課題に取り組む『学部横断型ゼミナール・プロジェクト』も、学生の視野を広げる特徴的な授業です。ただし、初めから多角的で高度な議論を期待しているのではなく、所属学部で培った知識を最大限に生かして意見を発信する過程で新たな気づきを得ながら課題を整理・集約し、議論を深めて解決策を導き出すことが目的です。本学はワンキャンパスだからこそ、こうした全学的な取り組みを推進しやすく、学生間の「化学反応」が起こりやすい恵まれた環境だと考えています」(高橋学長)

### データサイエンス副専攻を設置 横断的・学際的な学びを拡充

武蔵大学では、データサイエンスなど文理融合教育の充実化も図っています。その拠点となる「リベラルアーツ&サイエンス教育センター」では、専門知と専門知を融合させ、新たな知を生み出す『総合知』を養うことを目標に掲げ、これまで各学部が提供していた科目を一元管理し、新たな全学科目としてカリキュラムを設計しました。経済学や社会学など他学部の学びに触れられる科目や、



大講堂